



COMPANY PROFILE

The Craftsman Spirits.



The Craftsman Spirits.

その心が、
私たちのちからです。

ご挨拶

大正15年に創業して以来、石井製作所は国内の稻作農家様に向けた製品・サービスの提供を行う企業として、様々な製品の開発、製造、営業を行って参りました。その中でも弊社は「鎧の和」を経営理念としており、多くの方々と関係を繋ぐ「和」と常に互いを切磋琢磨する「鎧」を両立させることを、社内外における約束として活動しております。その活動の一環として我々は、農家様とともに常に農業を考え密接な営業活動を行い、その時代と状況に見合った技術を提供し、長く安心して使っていただける製品づくりを行うことで農家様と共に発展できる努力を続けて参りました。

近年では稻作農家様の省力化と高収益化を目指した製品づくりを進め、変化ある時代を農家様と共に勝ち進める製品の開発を進めております。

また、初代社長が全盲という障害を持っていましたことから、会社全体で体に障害を持っている方々に対する取り組みも積極的に行っております。の中でも盲学校への支援、梅藏記念館による盲目の作品展示等は多くのご支援を頂いております。

我々はこれからも農業を支える企業の一端として、またこの地域経済を支える企業として皆様とともに歩んでまいりたいと考えております。



株式会社石井製作所 **石井智久**
代表取締役

創業者の思い

石井製作所において最も大事なことは「和」を重視することでした。農業も企業も多くの多種多様な人によって成り立っており、性格や考え方異なる点は多いかもしれません農業における困り事に対する思いや課題は常に同じです。また、その困りごとを解決することが石井製作所の仕事なのです。

新社屋外観



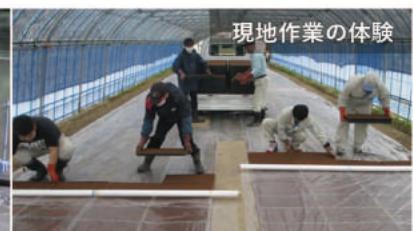
製造部塗装工場



試験・実験



現地作業の体験





石井梅蔵記念館
五重塔

会社理念

しのぎ 鎬の和

刀の刃と背の中間部を意味し、
和の中にもお互いに鎬を削り合い、緊張感、危機感の中で真剣に物事に対処する。

社是

- 一 我が社は農業の進歩と合理化を機械によって農家とともに革新しようと常に考える。
- 一 誠実に約束を守り、己の仕事を大切にし、誰でも自分の考えを発言でき、公私を明にして一致団結しよう。
- 一 我々はこの仕事を通じて社会に貢献しながら己の生活の本としたい。

社訓

- 一 製品の開発と改良は我が社の繁栄の源でありお客様の苦情はその源泉である。
- 一 営業の利益なき売上は社会の迷惑であり、それは売りにくいものである。
- 一 生産は必要に応じて出荷できることが最良であり、在庫は損金を生むものである。
- 一 管理は過ぎたる数字を基本にして反省し予測の管理を行うこと。
- 一 各職場は品質、能率、革新には責任を持って自分の創意を傾倒すべし。



研究部

こんな機械があったら便利、こんな機械があったら省力化できるとの発想を元に、アイディア（構想）からカタチ（製品）にするまで設計・試作・試験を幾度となく繰り返し、完成度の高い製品を目指します。

研究部は創業以来農業機械の開発に専念してきており、独自考案で他社に先駆け、送り出した製品が数多くあります。開発なくして製品は生まれませんので、まさに会社の心臓部でもあります。

研究部ではユーザーの要望や営業部の要望をもとに商品開発会議を行います。会議に上がった「こんな機械があったら便利」「この作業を機械化できないか」といった項目の中から開発テーマを決定し、アイディアを出し合い機械のイメージを作り上げます。その後CAD（コンピュータ設計支援）を使って設計図面を作成します。



●無コーティング代掻き同時播種機

稻作の春作業を大きく省力化することのできる直播機です。本機は東北農業研究センター、山形県農業総合研究センター、山形大学と共同開発した製品であり、今後の稻作の生産性向上を目指した農研機構生研支援センターによる「革新的技術開発・緊急展開事業」の取組事例となります。

次に設計図面を基に試作機の製作を行い、製品化に向けて試験・改良を行った後、製品として規格しても大丈夫という完成度に仕上がった段階で規格図面を製造部に渡します。

また、新製品ばかりではなく、作業体系の変化による既製品の改良やモデルチェンジ等、ユーザーの要望に沿った開発も行っています。

また、研究部には特許担当者がおり、提案されたアイディアに関する出願手続きや、設計に先立って先行技術調査を行い、他社の保有している権利に抵触しないか等、知財管理を常時行っています。



製造部

最新の工場・設備と改善運動の継続により、信頼される製品を生産します。

時代の変化や農業を取り巻く環境の変化に対応しながら、ユーザーの要望に応えた新製品を開発・製造してきた石井製作所の技術と業績は、「技術の石井」として全国に広く認められています。

製造部は、その技術を支える重要な部門といえます。

当社は2016年に酒田市京田西工業団地へ新工場を竣工し、本社機能を移転しました。最新の設備が導入された工場ではレーザー加工、プレス、溶接、塗装、組立を行っています。

工場内はワンフロアになっていて、他部署の生産進捗状況を「見える化」することにより部署を超えてペテランと若手が協力して生産活動を行えるレイアウトとなっています。また、農機市場の変化と営業マンからの要望に応えられるようラインの見直しを図り生産体制を一元化、生産を平準化し多様な生産が可能な体制を構築しました。

現在、当社では生産効率・品質の向上や、5S活動等ボトムアップでの改善活動を実施し、日々さらなる改善に取り組んでいます。



●ミニホッパ

グレンコンバインの普及とともに、乾燥機に張り込む際に使用。コンバイン袋でもトラックから直接張り込みを可能にした省力機械。



営業部

石井製作所の製品を自信をもって全国に拡げるサービスネットワーク。
いつでもお客様やユーザーの声に耳を傾け、
つねに信頼と満足のいただける製品サービスに努めます。

石井製作所は、農業機械メーカーの中でも特異性のある商品展開で広く認められており、全国的な販売網を持つ大手4社（井関農機・ヤンマー・三菱マヒンドラ農機・クボタ）全てと直接取引きをおこなっています。

さらに販売課の営業マンが、営業エリアを担当。北海道・青森・秋田・山形・岩手・宮城・福島・栃木・北陸3県・新潟・北関東（千葉・埼玉・茨城）・西日本・九州の販売店やメーカーの販売会社に対して、責任を持って営業を展開。業務係は商品の管理・出荷業務を担当しています。

営業部では毎月1回営業会議を開き、営業報告とともにお客様を回った際に得た情報やお客様の要望なども報告。その場で新製品のアイディア、現製品の改良点として議題にあげ、さらに研究部の商品開発会議で検討されていきます。



●グレンタンク

ローリングキャスター、自動正転切替装置等
といった常に新しい技術を提案、世に送り出している
我が社の自信作かつ主力商品でもある。

総務部

経営をサポートする情報等を収集・提供します。
社員が働きやすい職場環境整備に努めます。
社内各部門の運営が円滑に進むよう、連絡調整を図ります。

総務部は当社のバックオフィス業務を請負う『何でも屋』であるとともに、経営に必要な情報提供を行い、経営と現場・部署と部署・社内と社外をつなぎ、社員が働きやすい職場環境を作るのが仕事です。

(1) 経営トップのサポート業務

経営の意思決定やその他経営に必要な情報の提供、社内の調整・連絡等

(2) バックオフィス業務

経理、人事・労務、教育・福利厚生、文書・備品・動産・不動産・保険管理、
契約・契約書管理、慶弔・庶務、環境対策、リスクマネジメント

(3) 社内外活動企画、運営、対応

株主総会・取締役会、朝礼、始終業式、防災訓練、
その他社内行事、インターンシップ受入、官公庁や
金融機関との対応。

特に人事面では募集、採用から給与、教育、被服、
衛生、福利厚生、表彰、退職金、年金と、社員
一人一人が安心して働けるよう体制を整えています。



●オート播種機

床土入れから播種、覆土までを
フルオートで行う播種機です。

人との繋がりを大切にして、 お客様に満足いただける製品・サービスを提供したい

石井製作所は創業時から、常にお客様の声に耳を傾けることでお客様のニーズや、まだお客様自身も気付いていない潜在ニーズに応えられる製品やサービスを提供してきました。

こうしたお客様との繋がりが当社の財産であり、これからもお客様に信頼と満足をいただける製品、サービスを提供し続けることが石井製作所の使命と考えています。

営業部
(1977年入社)

研究部開発係
(2016年入社)

製造部組立係
(2016年入社)

製造部資材係
(2009年入社)

お客様のニーズに合わせた製品づくり

研究部開発係は文字どおり製品の開発を担当します。新製品の開発のほか、既存製品の改良等も研究部の仕事です。

当社は稲作関連機械が主力ですが、稲作農家さんの規模も作業人数・作付面積の大小など様々な形態があり、求められている機械の性能もそれぞれ異なっています。その幅広いニーズに応えられるように、農家さんに直接お話を伺い、農業情勢についての情報収集、営業マンとの情報共有を行って製品づくりにフィードバックしています。

仕事をする上で苦労したり、悩んだりすることもありますが、もともと機械いじりが好きなので、試作や改良を繰り返しながら製品づくりをすることを楽しみつつ作業を行っています。悩んだら悩んだ分だけ、課題解決できた時に達成感を感じることができます。

信頼される製品をお客様にお届けしたい

私が働いているのは、製造部の組立係という部署です。プレスや塗装で仕上げられた部品を組み立てて製品にし、各地へ発送するために梱包します。

日頃から心がけていることは、しっかりと確実に丁寧に作業することで、お客様に信頼される製品をお届けするということです。私たちの製品が、農家様にとって使いやすいものであること、そしてそれが美味しいお米づくりにつながればとてもうれしく思います。

まだ2年目でわからないこともありますが、細かい点まで先輩方が教えてくれるので不安なく作業できます。信頼される製品づくりのために自分も成長していきたいです

“ものづくり”は仕入れから

材料、部品を必要なタイミングで調達し、良いものを安く製造ラインに供給します。

購買のプロとして、戦略的な調達活動を行い、また購買活動を通じてトータルコストを最小化させ事業に貢献しています。

縁の下の力持ちのイメージのある購買・資材調達ですが、企業活動を進めていくために必要な責任のある仕事です。

企業利益を確保するために営業部門が売上を伸ばすのに対して、購買・資材調達ではコストカットによって企業の収益に貢献しています。大変やりがいのある仕事です。

石井製作所10の強み

01 高機能で確実性が高い製品を開発しています

当社製品は製品毎その役目をきちんと果たせるよう設計を行っております。バネコン等の搬送機は納屋内で使いやすいよう良く曲がり、溢れ防止センサーなどで排出量を調整しております。

02 長寿命製品の開発に取り組んでいます

当社の製品は多少の衝撃や経年劣化では壊れないような取組を行っております。フレームやホッパーを鉄製にしたり、バネコン等もすぐ穴があかないよう補強板を入れるなどの対応を行っております。

03 お客様がメンテナンスしやすいシンプルな設計の機械です

当社の製品はお客様自身でメンテナンス、部品交換が可能なように設計を行っております。消耗品であるバネコンや碎土機は簡単に分解でき、パーツごとに取り換え修理が可能となっております。

04 創業90年以上の歴史ある、信頼と実績のある企業です

弊社は大正15年に創業して以来、地域に根差した農業機械の開発・製造・販売に取り組んできました。地元である東北地方を中心に、多くの農家様から弊社製品を使用していただいております。

05 農家の皆様から直接お声をいただき、製品開発に取り組んでいます

製品開発の際には近隣の農家様のご協力を得て、実際に使用していただき改善点や改良点を事前に修正しております。また販売後も農家様や販売店様よりいただいた感想をもとに、日々製品の改良に取り組んでおります。

06 研究機関との共同研究で新商品を開発しています

当社では東北農研様等の研究機関と共同で製品を開発する取組を行っております。現在研究を行っている直播機「無コーティング代播き同時播種機」は低コスト省力化に向けた製品として開発いたしました。

07 社内で開発・製造・営業を一貫しています

当社では製品の開発・製造・販売を一貫して行っており、日々製品やサービスの改善に努めています。

08 新工場で最新の設備を使用し製品を作っています

2016年11月をもって酒田市京田西工業団地へ事務所・工場を移転いたしました。新工場では板金、溶接、塗装、組立を行っており、新しい設備が導入されたほか、ベテランと若手が団結して日々製品品質の向上に努めています。

09 創作機械を開発しています

当社では既成にとらわれず、農家様のニーズに沿った製品開発も行っております。碎土機等は当社独自のオリジナル製品であり、水田や畑の育苗用の土を作るための機械となっております。

10 全国展開しています

当社は全国の販売店様、農協様を通じて全国に製品を提供しております。また東北、北陸、関東地方を中心に各展示会へ製品を展示しており、弊社製品を実際に触れてみたり、営業スタッフへ相談や質問ができる機会を提供しております。

石井製作所



会社概要

会社名	■ 株式会社石井製作所	電話番号	■ 0234-28-8239	
代表者名	■ 代表取締役 石井 智久 (いしいともき)	FAX	■ 0234-28-8256	
本社	■ 〒998-0102 山形県酒田市京田4丁目1番地の13	ホームページ	■ http://isi-mfg.com/	QRコード読み取り機能のある携帯電話をお持ちの方は上記のQRコードを読み込むとホームページにアクセスできます。
MAIL	■ isi-support@isi-mfg.com			

沿革

大正10年	創業者である石井梅蔵が山形県酒田市局にて鉄工所を創設。 (大工仕事の傍らで木製の唐箕、塵立扇風機等を製造)	昭和55-62年	稲作の機械化に伴い、育苗や搬送手法が大幅に変化。 これに伴い碎土機、全自動播種機、グレンスロワーを開発
大正15年	石井農機製作所と改名。農業機械の生産を本格化する。	昭和63年 -平成6年	大豆選粒機、若荷洗浄機、生ゴミ分解処理装置等、畑作、環境関連機器の開発を行う。
昭和3年	石井農機製作所初となる正式製品、水田除草機を開発。	平成7年	コンテナ用ローリングキャスターを開発、製造を開始。
昭和5年	北海道に向けた牧草裁断機のフライホイル型人力動力兼用型カッターを開発。	平成9年	石井正三が代表取締役会長へ就任。その長男の石井幸が代表取締役社長に就任。Lコンの開発を開始。
昭和7-8年	シリンドー型カッター、半自動糲すり機、米選機、縦縄製造機を開発。	平成12年	医療用具製造業許可を取得。 業務用マットレス洗浄機を開発。
昭和15-20年	脱穀糲すり機、回転刃物式ワラ切機、自動送り脱穀機を開発。	平成15年	ポット苗箱洗浄機、枝豆専用播種機、田植機装着型水田用除草機を開発。
昭和24年	糲すり機の改良時の事故により石井梅蔵が失明。 経営を長男である石井正三が代行する。	平成16年	産学官連携による風力・太陽光ハイブリット発電機を共同開発。
昭和29年	長尺スロワーを開発。	平成17年	レンコン田用肥料散布機、酒造用麹切り替えし機を開発。
昭和34年	工場を一部増築、OEM・ODMを主体とした経営体質を確立。	平成21年	新型播種機、育苗器を開発、製造を開始する。
昭和35年	鉄工場、塗装工場を新設。送塵機、穀類搬送機、稻麦刈取結束機(バインダー)を開発、製造を開始する。	平成24年	石井正三が代表取締役社長へ再度就任。
昭和39年	株式会社石井製作所へ改名。	平成26年	東北農研と共同開発した無コーティング代掻き同時播種機が経済産業省の地域産業資源活用事業計画に認定。
昭和43年	自脱型コンバインの登場により、弊社のスロワーを中心にトラクターやコンバイン等のアタッチメントや周辺機器の開発に携わるようになる。	平成28年	酒田京田西工業団地へ新社屋を竣工、本社機能を移転。
昭和46年	コンバイン用カッター(スターホイル刃、後方排出カッター、デスクカッター、ドロッパー付きカッター等)の開発、製造を開始。	平成29年	石井智久が代表取締役社長へ就任。
昭和50年	石井梅蔵が会長へ就任。その長男の石井正三が代表取締役社長へ就任。		

